

# 平成27年3月期 決算説明会

平成27年 5月 25日



株式会社 東邦システムサイエンス

証券コード：4333 東証一部

- I. 平成27年3月期 業績
- II. 平成28年3月期 業績見込
- III. 中期事業計画 トリプル30プラン

# I. 平成27年3月期 業績

(単位：百万円)

	H26.3月期実績	H27.3月期実績	増減額	増減率(%)
売上高	10,481	12,567	+2,085	+19.9%
売上総利益 (売上総利益率)	1,910 (18.2%)	2,179 (17.3%)	+268	+14.1%
販売費および一般管理費 (販管費率)	1,034 (9.9%)	1,023 (8.1%)	△11	△1.1%
営業利益 (営業利益率)	876 (8.4%)	1,155 (9.2%)	+279	+31.9%
経常利益 (経常利益率)	882 (8.4%)	1,162 (9.3%)	+280	+31.7%
当期純利益	499	663	+163	+32.8%

## 増収増益で売上高、経常利益、当期純利益は過去最高

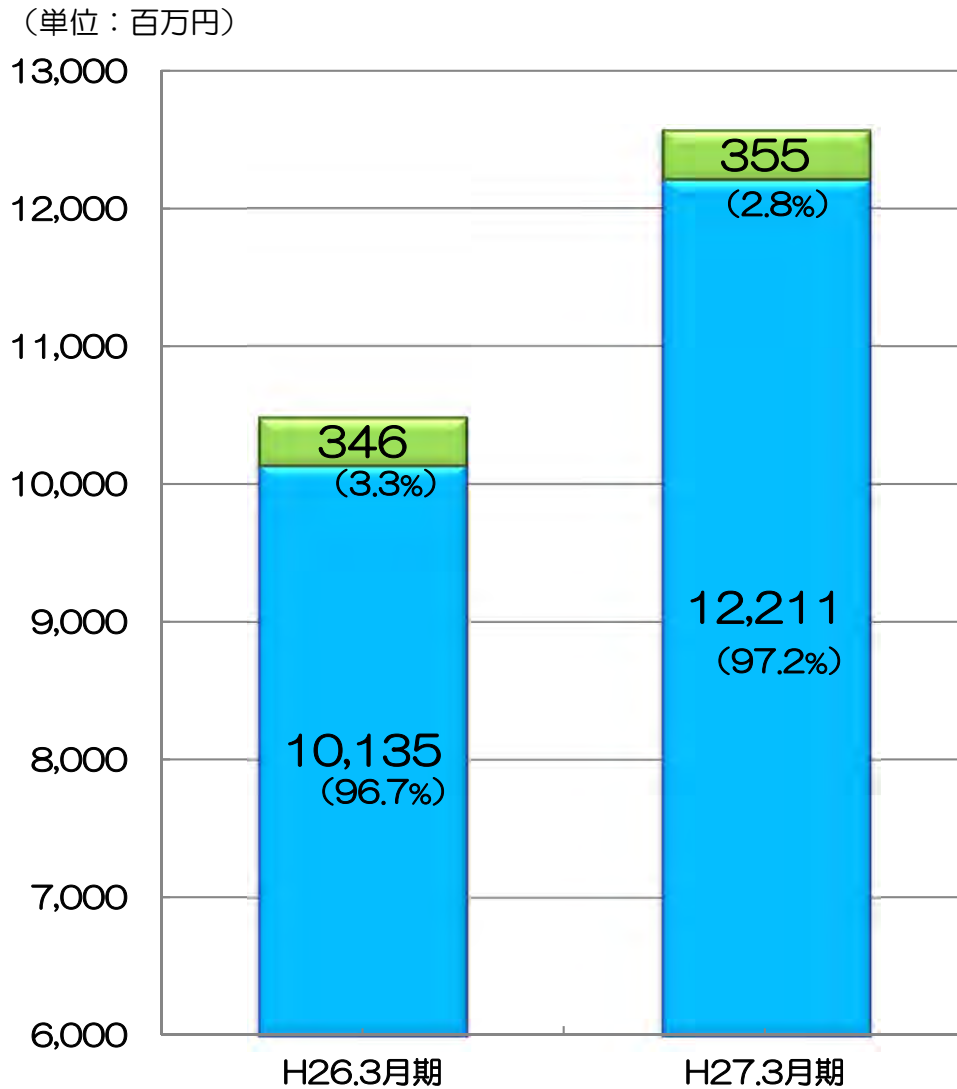
増収要因：金融系分野では銀行や保険を中心に増加、非金融系分野では医療福祉、郵便が大きく進展

増益要因：売上増に伴う売上総利益の増加及び販管費の抑制により増益

売上増により販管費率が下がり、利益率は上昇

■ソフトウェア開発 ■情報システムサービス等

(単位：百万円)



	H26.3月期	H27.3月期	増減
ソフトウェア開発	10,135 (96.7%)	12,211 (97.2%)	+2,075
情報システムサービス等	346 (3.3%)	355 (2.8%)	+9
計	10,481 (100%)	12,567 (100%)	+2,085

## ソフトウェア開発

金融系分野：9,784百万（前期比+14.5%）

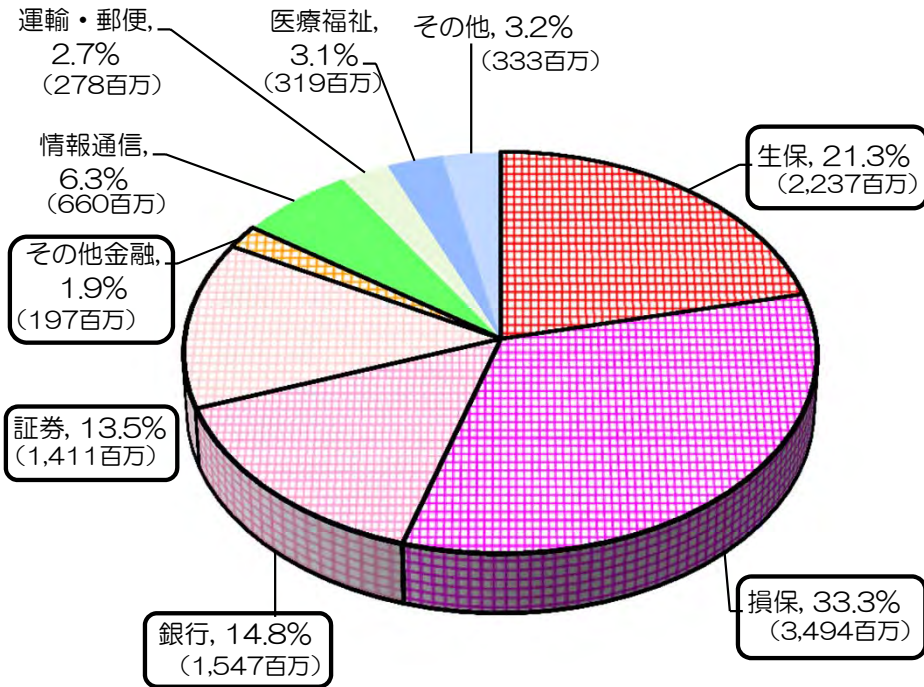
非金融系分野：2,426百万（前期比+52.4%）

## 情報システムサービス等

コンピュータ運用管理業務：355百万（前期比+2.8%）

# 業種別売上高・構成比

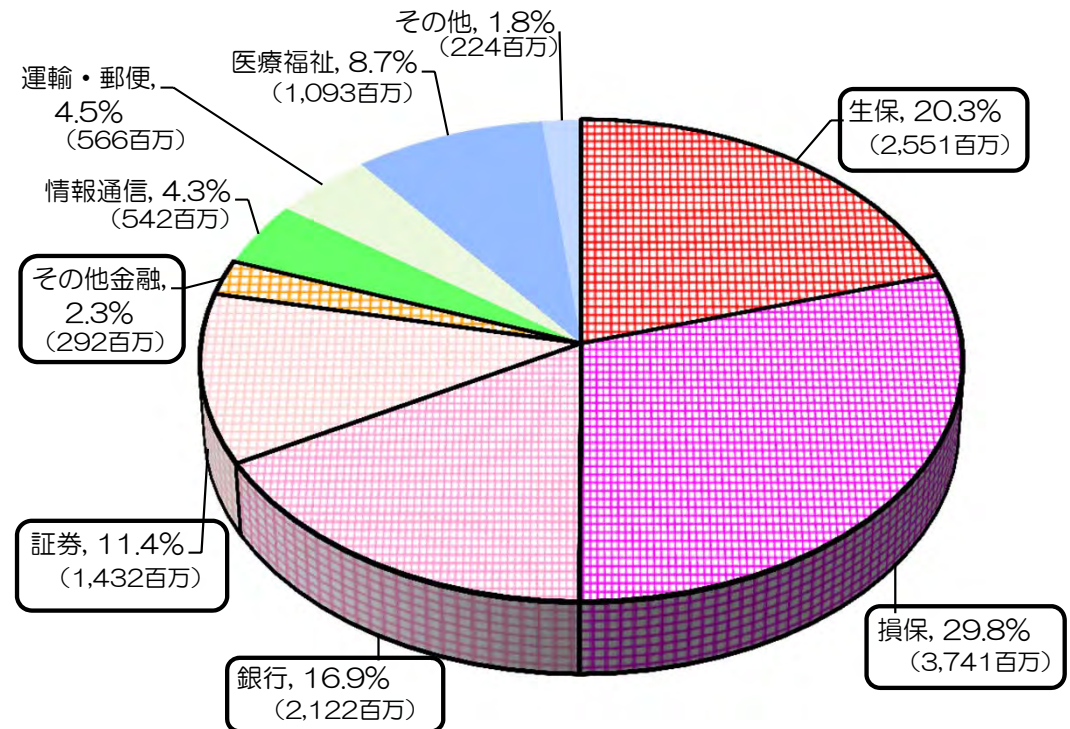
平成26年3月期



売上高：10,481百万円  
金融関連：84.8%(8,889百万円)

は、金融系業種

平成27年3月期

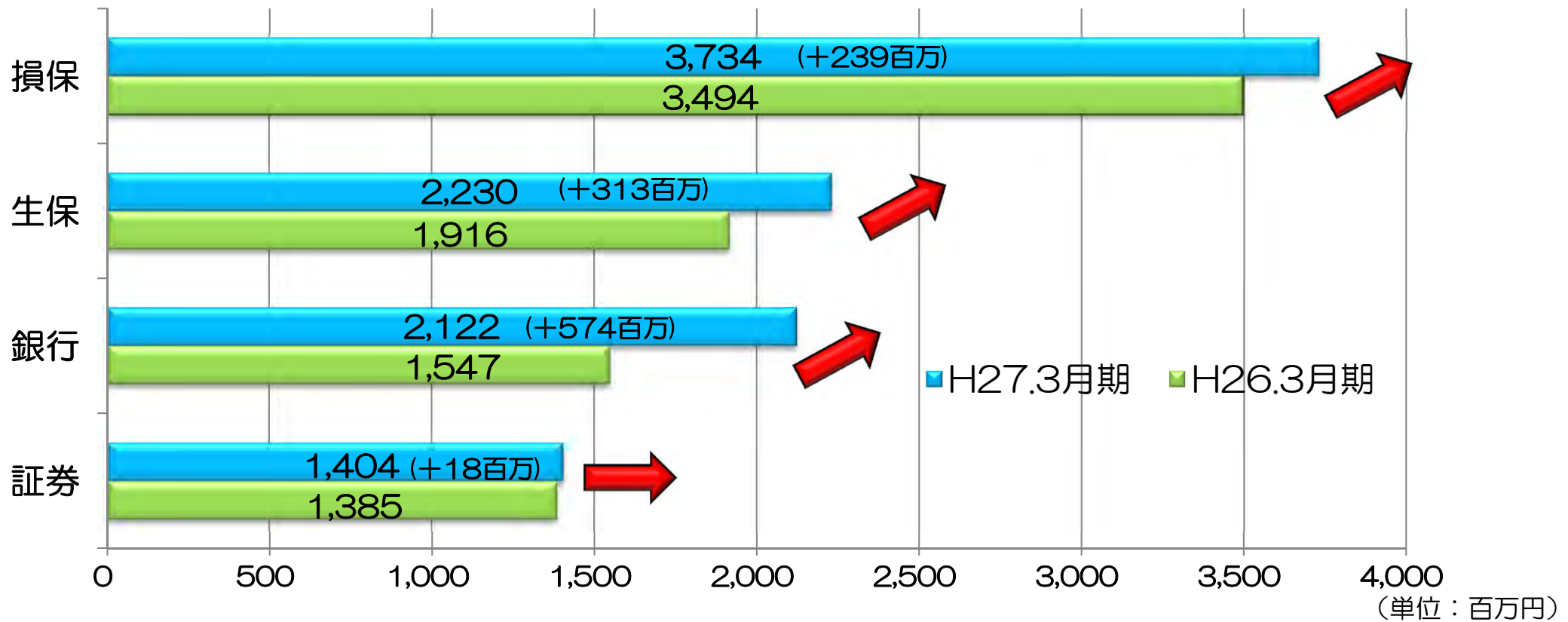


売上高：12,567百万円  
金融関連：80.7%(10,140百万円)

金融系：メガバンク統合案件、金融所得課税の一体化対応等で銀行系業務の受注が増加、生保系業務の継続案件拡大  
損保系業務・証券系業務も堅調に推移  
金融系以外：通信系業務が縮小するも、福祉系業務、郵便系業務が大幅に増加

金融系ソフトウェア開発売上高9,784百万円（前期比1,241百万円増,14.5%増）

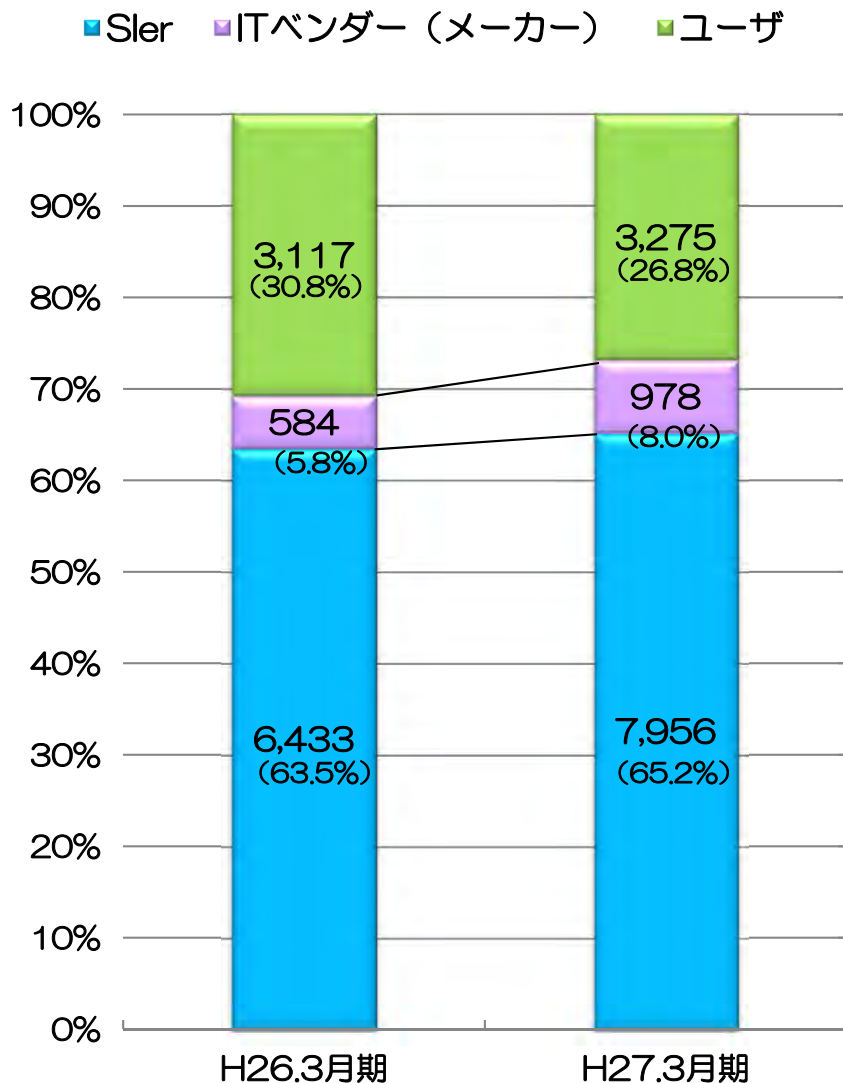
※その他金融含む



- ▶ 銀行系業務はメガバンク統合案件や金融所得課税の一体化対応等で受注増加
- ▶ 生保系業務は前期からの継続案件が拡大
- ▶ 損保系業務は外資系損保の統合案件等、証券系業務は大手ネット証券会社の再構築案件等により堅調に推移

# 受注先別売上高・構成比(ソフトウェア開発)

(単位：百万円)



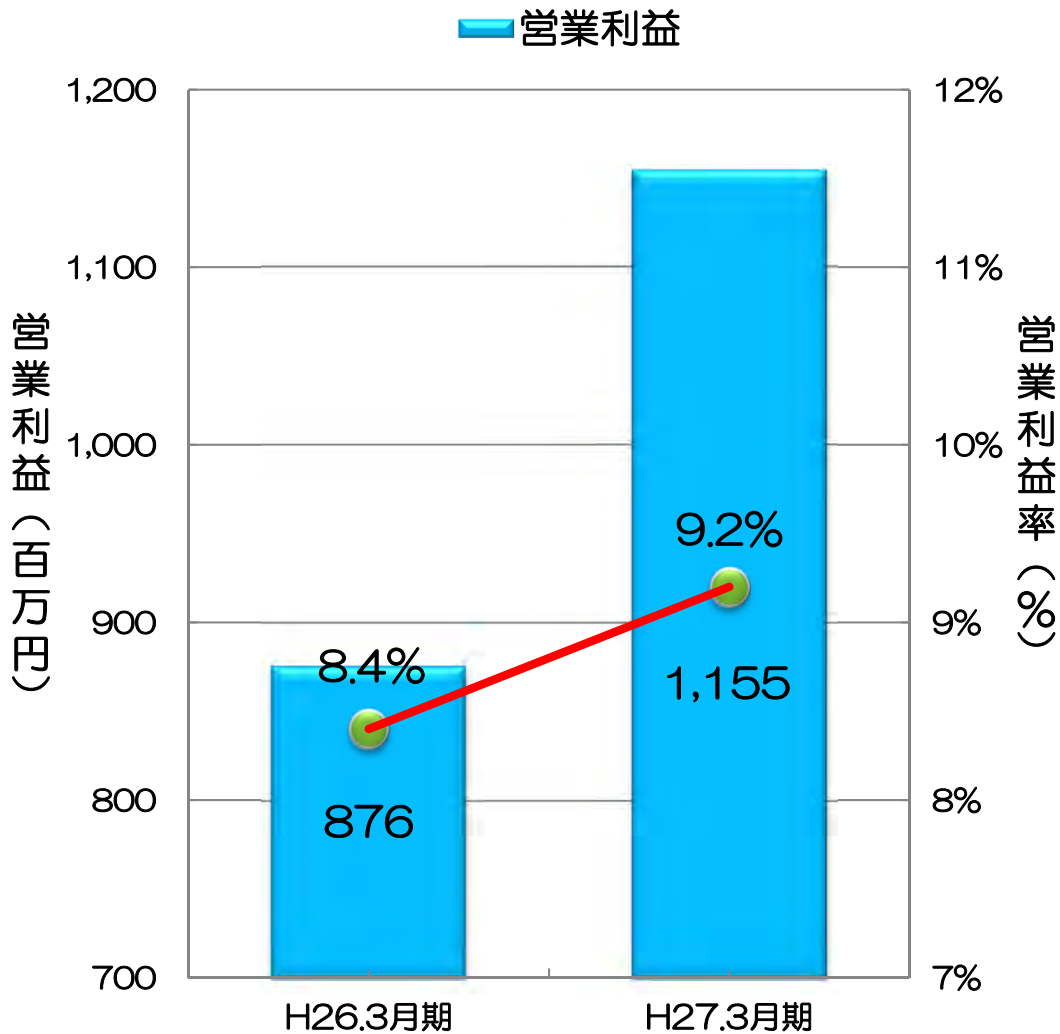
	H26.3月期	H27.3月期	増減
Sler	6,433 (63.4%)	7,956 (65.2%)	+1,523 (+1.7ポイント)
ITベンダー (メーカー)	584 (5.8%)	978 (8.0%)	+394 (+2.2ポイント)
ユーザ	3,117 (30.8%)	3,275 (26.8%)	+158 (△3.9ポイント)
計	10,135 (100%)	12,211 (100%)	+2,075 (-)

## 売上高上位3社

1. (株)野村総合研究所 Sler  
47億56百万円( 37.8%、32.2%増)
2. 新日鉄住金ソリューションズ(株) Sler  
9億66百万円( 7.7%、39.2%増)
3. AIU損害保険(株) ユーザ  
9億18百万円( 7.3%、138.7%増)

( )内は構成比、前期比増減





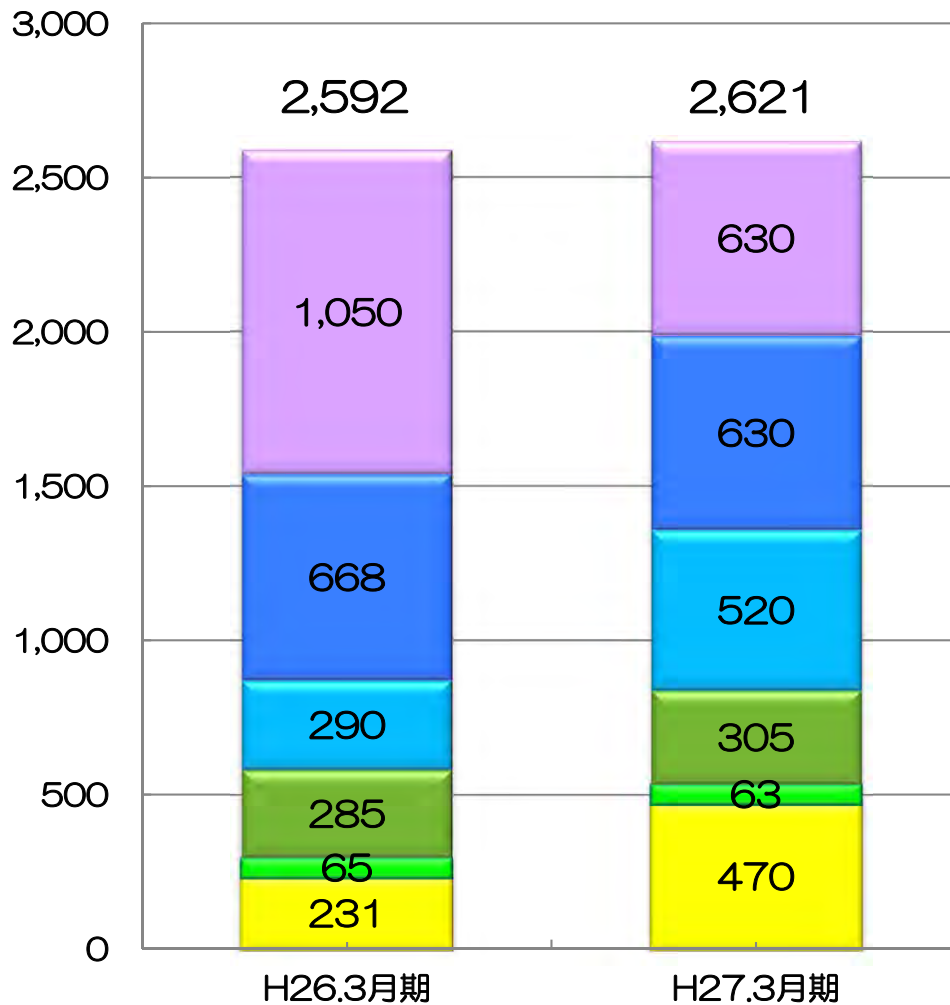
(単位：百万円)

	H26.3月期	H27.3月期	増減
営業利益 (営業利益率)	876 (8.4%)	1,155 (9.2%)	+279 (+0.8 P)

売上増、仕入原価抑制（ニアショア・オフショア活用、調達強化）に伴う売上総利益の増加、及び販管費の抑制により増益

■ その他 ■ その他金融 ■ 銀行 ■ 証券 ■ 生保 ■ 損保

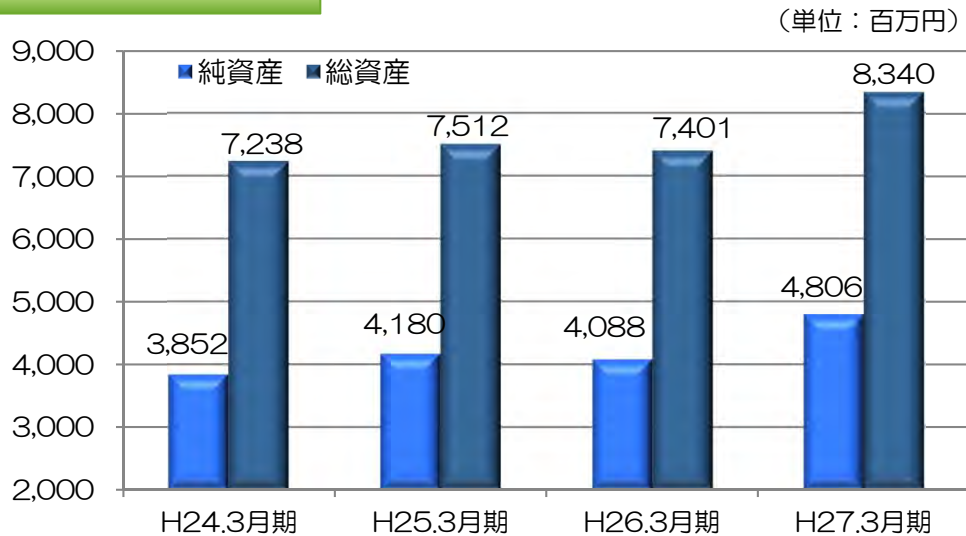
(単位：百万円)



業種	H26.3月期	H27.3月期	増減
損保	1,050	630	△420
生保	668	630	△38
証券	290	520	+230
銀行	285	305	+19
その他金融	65	63	△1
その他	231	470	+239
<b>計</b>	<b>2,592</b>	<b>2,621</b>	<b>+29</b>

- 当社の受注環境は堅調  
(前期比で29百万、1.1%増)
- 受注残高の継続的維持に注力

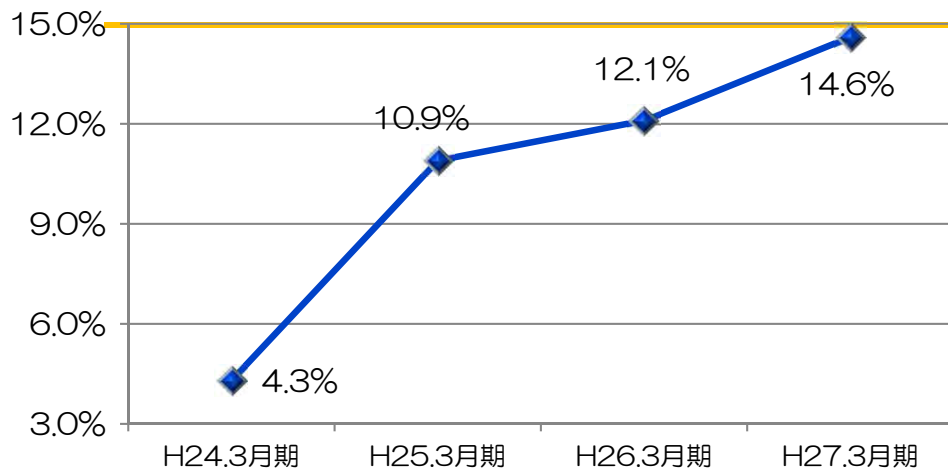
## 純資産・総資産



(単位：百万円)

	H24.3月期	H25.3月期	H26.3月期	H27.3月期
純資産	3,852	4,180	4,088	4,806
総資産	7,238	7,512	7,401	8,340

## ROE(自己資本当期純利益率)



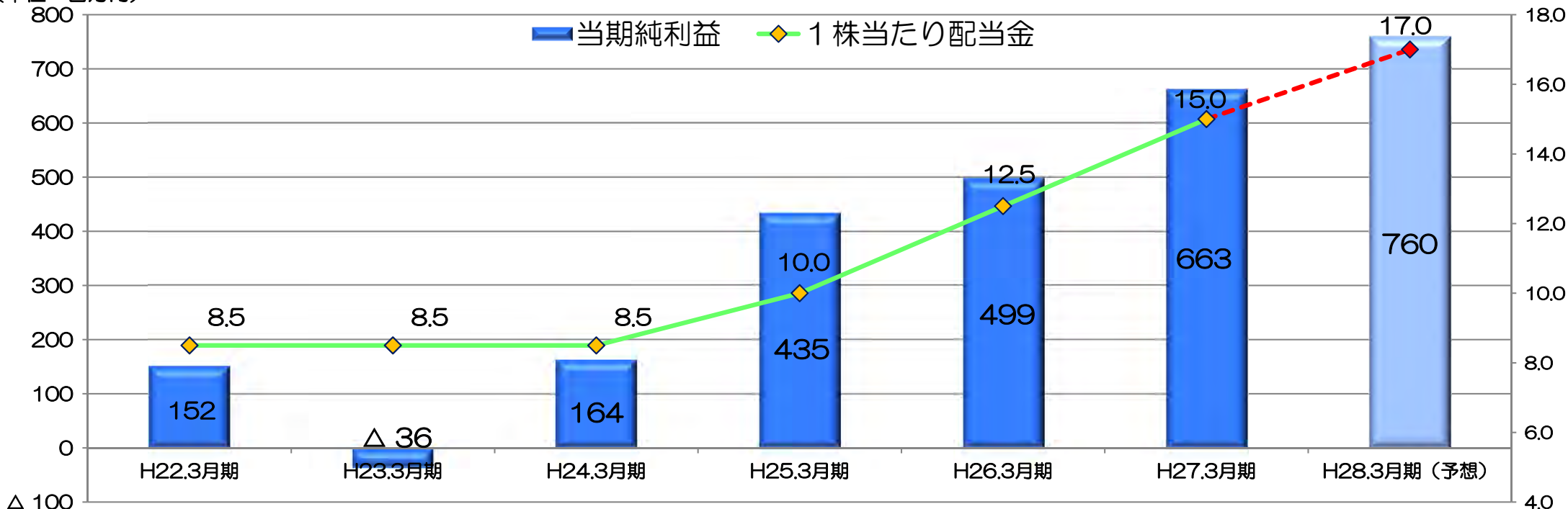
	H24.3月期	H25.3月期	H26.3月期	H27.3月期
ROE	4.3 %	10.9 %	12.1 %	14.6 %

ROE(自己資本当期純利益率) 目標：15%以上

# 当期純利益・配当金・配当性向

(単位：百万円)

(単位：円)

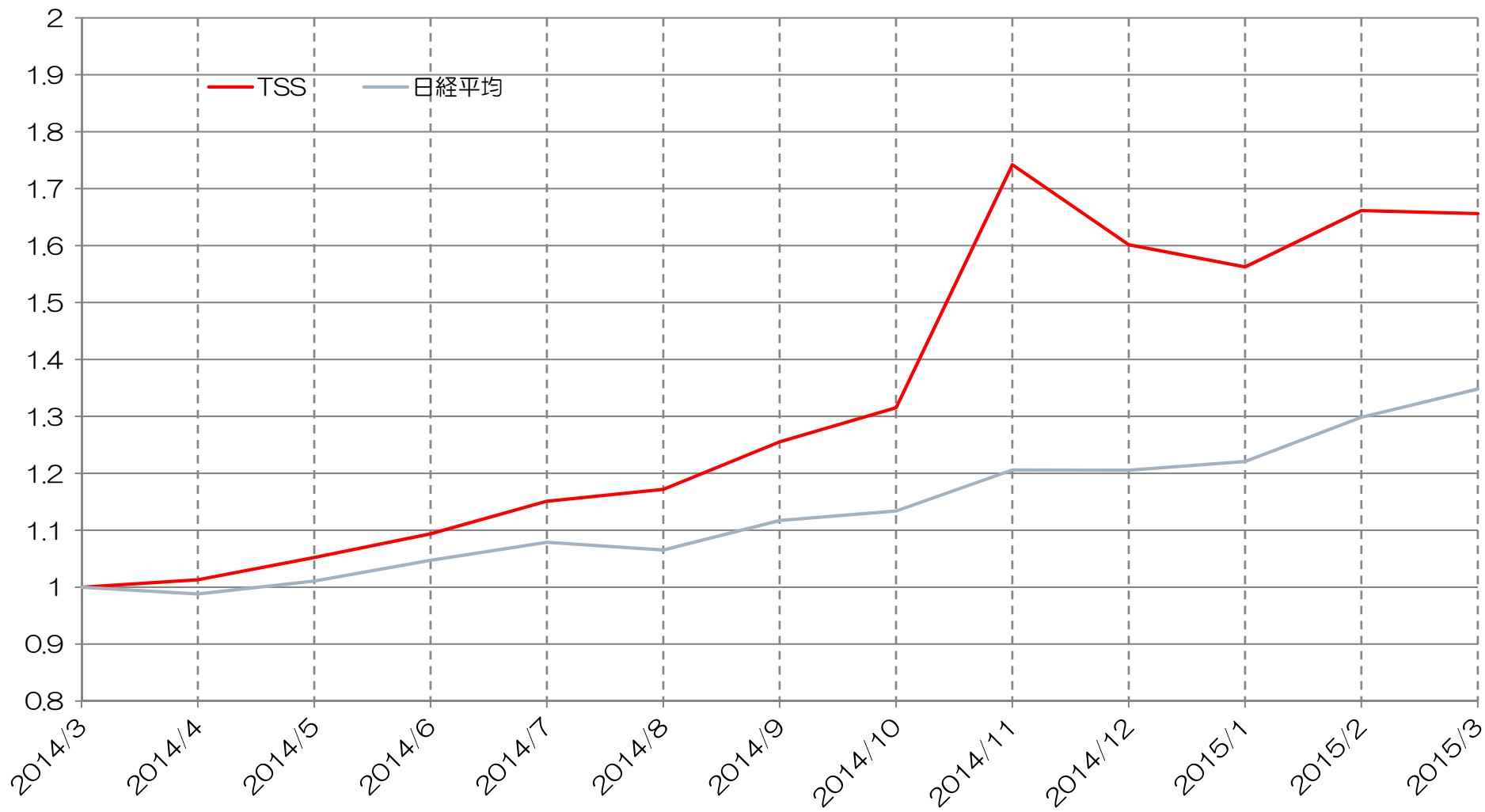


	H22.3月期	H23.3月期	H24.3月期	H25.3月期	H26.3月期	H27.3月期	H28.3月期 (予想)
配当金 ※1	8.5円 (17円)	8.5円 (17円)	8.5円 (17円)	10.0円 (20円)	12.5円 (25円：普通配当22円＋記念配当3円)	15.0円	17.0円
配当性向	73.0%	-	70.3%	31.1%	32.9%	27.4%	27.1%
純資産配当率	2.9%	3.0%	3.0%	3.4%	3.9%	4.1%	-

※1.H26.3月期以前の配当金は、平成26年12月1日の1：2の株式分割に伴う影響を遡及して調整しております。( ) 括弧内の金額は実際の配当金額です。



# 当社株価の推移



## Ⅱ. 平成28年3月期 業績見込

(単位：百万円)

	H27.3月期実績	H28.3月期計画	増減額	前期比増減率(%)
売上高	12,567	13,000	+433	+3.4%
営業利益 (営業利益率)	1,155 (9.2%)	1,200 (9.2%)	+45	+3.8%
経常利益 (経常利益率)	1,162 (9.3%)	1,206 (9.3%)	+43	+3.7%
当期純利益	663	760	+96	+14.6%

## 増収増益の実現に向けた活動

- ▶ 新規ビジネスモデル創出や品質・生産性改革に積極的に投資
- ▶ 顧客ニーズを捉えた「モノ作り力」を強化し、高い付加価値と圧倒的な品質・生産性を実現して既存ビジネスを拡大

# Ⅲ. 2015～2017年度 中期事業計画 トリプル30プラン



2015～2017年度（平成28年3月期～平成30年3月期）3カ年 中期事業計画トリプル30プラン

① 継続的かつ安定的な事業拡大

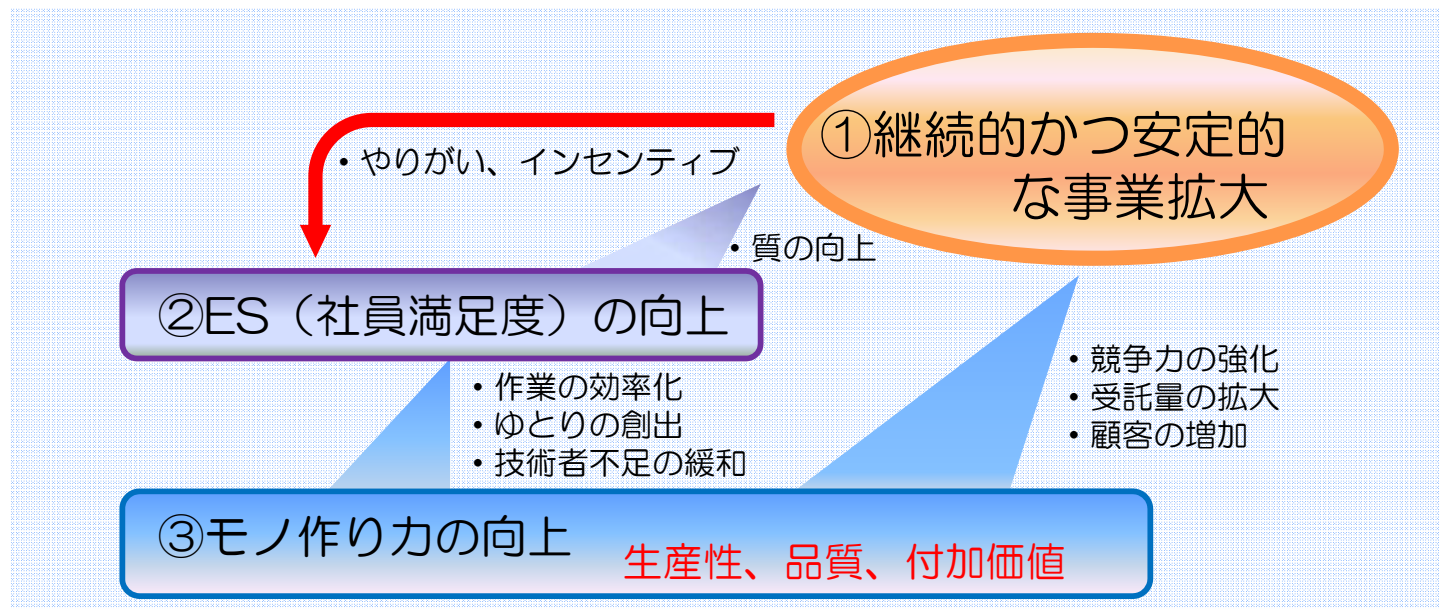
売上高 **30億円UP**、営業利益率10%の達成

② ES（社員満足度）の向上

社員満足度**30%向上**で、社員活性化と質の向上

③ モノ作り力の向上

生産性・品質**30%向上**で、付加価値向上



新たな価値を顧客とともに創造できるベストパートナーを目指す

## ① 継続的かつ安定的な事業拡大

売上高 **30億円UP**、営業利益率10%の達成

継続的かつ安定的な事業拡大を実現して、存在感のあるSlerとなり、売上高30億円増、営業利益率10%以上、ROE15%以上を達成する。

### Slerとしてプライム案件獲得強化

- 新規エンドユーザの開拓強化
- 既存エンドユーザからの受注拡大
- 顧客自主事業案件の積極的獲得
- 一括請負案件受注の推進
- 案件規模の拡大

### 経営基盤の強化・安定

- 継続的な保守・エンハンス案件の拡大
- 大手顧客からの受注拡大
- コアビジネス（金融）領域の強化
- 非金融分野売上げ拡大
- AMOなどの戦略保守の積極的提案

### 要員確保と流動性の向上

- 自主開発案件の獲得強化
- 人材確保の強化
- コアなパートナー企業との連携強化
- オフショア・ニアショアの活用推進

### 新規ビジネスモデルの創出

- BRMS(Business-Rule Management System) 製品を利用したソリューション製品の展開（保険料計算、医務査定など）
- サービス提供型ビジネスモデルなどの検討

現在 BRMSとしては、韓国イノルールズ社製 *innoRules* を展開

## ② ES（社員満足度）の向上

社員満足度 **30%向上**で、社員活性化と質の向上

働き方の改革で労働環境の改善と活気のある職場作りを行うことで、ES（社員満足度）の30%向上を実現し、会社競争力の源泉で唯一の資産である社員の活性化と質の向上を図る

### ワークライフバランスの充実

- 働き方の改革で労働時間の適正を図る
- 計画的な長期休暇取得で有休取得率向上
- 管理職による適正な労働環境の維持推進

### 社員モチベーションの向上

- 社員のニーズの継続的把握と改善
- 社員同士の交流の推進
- 福利厚生制度の充実

### 組織・人材の活性化

- 裁量労働制と成果主義型賃金制度の浸透でやりがいがある組織・風土づくり
- 分科会活動など自主的活動の推進による仲間意識・助け合い精神の醸成
- スクラム開発などの開発手法導入によるチームワークの強化

### 自立型人材育成の強化

- 技術・業務系資格取得の推進
- 育成ロードマップに沿った社内研修の充実
- 自己啓発推進とゆとり時間の創出

## ③ モノ作り力の向上

生産性・品質 **30%向上**で、付加価値向上

優れた競争力と付加価値を実現し、顧客ニーズを正確に捉えたモノ作りやサービスの提供が出来る会社を目指して、生産性・品質が30%向上する改革を行い、売上高30億円増、社員満足度30%向上の推進エンジンとする。

### 生産性・品質改革

- 品質および生産性阻害要因の把握、分析と対策
- 要件定義・基本設計工程の設計力強化
- 自動化ツールやフレームワークの適用
- 社内開発標準策定とプロジェクトへの適用
- 品質・生産性向上策を顧客やコアなパートナー企業と共同で取り組み
- 大規模プロジェクトを推進できるマネージャ・リーダーの育成

### 仕損プロジェクトの防止

- 商談、見積り検討の強化
- プロジェクト診断による状況の把握
- プロジェクト状況やリスクの可視化・監視
- PMOの強化

社長直轄の専門部署（プロジェクト監理室）による活動の強化

### 事務効率化

- 社内事務フローの見直しとシステム化推進
- 社内ペーパーレス化推進

# 最適なシステムソリューションを 提供する高信頼度企業！

皆様におかれましては、引き続きご支援のほど、  
よろしくお願い申し上げます。



株式会社 東邦システムサイエンス

## \* 本資料についてのご注意

本資料は、平成27年3月期の業績および今後の業績見通し、経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。

本資料に記載されている株式会社東邦システムサイエンスの将来予想に関する事項は、現時点における情報に基づき判断したものであり、予想に内在する不確定要因や今後の事業運営における状況変化等により変動することがあります。

なお、いかなる目的であれ、本資料を無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。